

「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組

平成26～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～徳島県～

目的

- ・県の英語教育改善プランに基づき、外部専門機関・英語教育推進リーダーと連携した県内全域での英語教育改善
- ・校種間連携を意識しつつ、指導と評価の一体化を促進

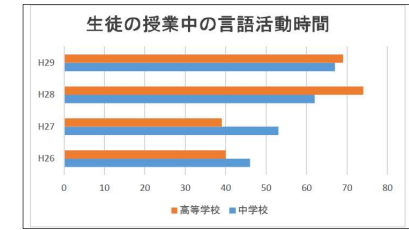
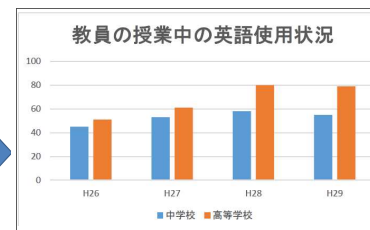
具体的な取組の内容

- ◎全小学校、全中・高英語科教員への外部専門機関・英語推進リーダーと連携した悉皆研修
 - ・教員の英語力向上・授業力改善の支援
 - 【H26～28 小中高英語パワーアップ講座】
小学校3年間で180名 中学校・高校370名
 - 【H29・30 英語中核教員研修A】
小学校2年間で500名 中学校・高校160名
- ◎研修協力校での公開研修会、公開授業実施
 - ・指導と評価の一体化に関する研修
- ◎中・高英語科教員の英語力向上の支援
 - ・TOEIC IP 団体受検に備えた演習・自己研修プログラム作成支援



成果と課題①

◎授業中の教員・生徒の英語使用状況が大きく改善



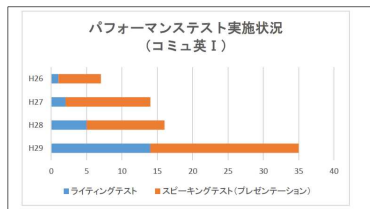
英語教育実施状況調査より

教員の英語力や授業での使用状況は改善してきたが、今後もさらに定着するよう継続した研修が必要である。

成果と課題②

◎評価の改善

- ・発信力育成指導につながるパフォーマンステストの実施率が大きく上昇しており、特にプレゼンテーションやライティングテストなど多様な方法の実施が増えている。



英語教育実施状況調査より

- ・協力校(高校)では積極的な4技能育成指導が行われるようになり、外部検定試験の受検者が前年の3倍(36人→122人)に増加した。

成果の波及・周知について

- ◎中核教員による校内伝達
 - ・最新の指導法の共有
 - ・校内研修・研究授業の充実
- ◎研修協力校における成果の波及
 - ・各校種研究会への公開授業・公開研修
 - ・他校種研修協力校への公開授業・公開研修
 - ・県小教研プレ大会での公開授業・教科調査官講演



課題解決のための手立て

- P** 教職員のニーズに合わせた新研修の実施
 - ・授業改善+教員の英語力向上
 - ・小・中・高系統性のある4技能向上を目指した指導方法の習得
- A** 次年度に向けて、学習到達目標、年間指導計画の見直し
- C** 児童・生徒の発信力の適切な評価
 - ・パフォーマンステスト、外部検定試験等の実施
 - ・小・中・高系統性のある評価の実施
 - ・CAN-DOリストの形での学習到達目標の活用・公開及び単元・学期ごとの達成状況の把握
- D** 大学講師と推進リーダーによる最新の指導方法の講習

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～勝浦町立生比奈小学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・教師の英語力向上・・・研修(県の英語中核教員研修受講, アクティビティやゲームの説明等に使うクラスルームイングリッシュの強化)
- ・教師の指導力向上(授業改善)・・・授業公開, 事前の指導案検討会, 細案検討会, 模擬授業, 教材づくり(オリジナルチャンツづくり)
- ・英語を使う場の設定・・・イングリッシュ集会・環境づくり(教室表示, 各教室イングリッシュコーナーの設置, 集会活動内容の掲示)



具体の取組の内容

- ・外国語アンケート(児童)
6月・12月実施
- ・イングリッシュ集会実施
(毎月1～2回)



他教科と関連させた取組

お弁当大作戦(5・6年)・・・食育



家族のために「オリジナルピザ作り」の計画・・・(4年 食育)



「I like my town.」
We can! 2 Unit 4

総合的な学習の時間
「ふるさとを紹介しよう」
・道の駅「よってネ市」で実施



・徳島県小教研プレ大会
4年「What do you want?」

(Let's try! 2 Unit 7)

・講演会「新学習指導要領『外国語教育』全面实施に向けて, 移行期の今, 取り組みたいこと」
文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子

6年「My Best Memory」

(We Can! 2 Unit 7)



成果①

- 6年生児童アンケート (6月・12月の分析)
- ・「英語が好きですか。」の質問
『きれい』 6月・・・10%
12月・・・0%
 - ・「英語の授業の内容がわかりますか」
『分からない・どちらかといえば分からない』
6月・・・20%
12月・・・5%
 - ・集会活動で, 下学年と上学年が英語を話したり, 英語のゲームをしたりする中で仲良くなり, 様々な学校行事においてもスムーズに協力して活動が行えるようになった。

成果②

- (児童)
- ・英語を楽しんで使うようになった。
 - ・振り返りシートを活用することで, めあてをもって活動に取り組めるようになった。
 - ・ALTや友達と積極的にコミュニケーションを図るようになった。
 - ・他教科においても聞く力が育った。
 - ・自分の思いを英語で伝えたい気持ちが高まった。
 - ・相手を意識して活動が行えるようになった。
 - ・文字を意識するようになった。
- (教員)
- ・積極的にクラスルームイングリッシュを使うようになった。
 - ・地域教材を工夫し, オリジナルな要素を生かした授業改善に努めた。

今後の課題・方向性

- ・各学年の系統性のある計画が必要。
- ・教育活動全体を通して, 話を聞いたり自分の思いを伝えたりすることができる児童の育成。
- ・ALTと共に作り上げる授業づくり。
- ・外国語で学びを生かした, 他教科との関連や体験学習の実施の工夫。
- ・小中の連携。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」 ～阿南市立那賀川中学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・自分の考えや思いを表現するとともに、相手を意識した対応をする。(生徒)
- ・小学校での学びを生かし、接続させることを意識した授業をする。(教員)

具体の取組の内容

- ① グループ学習を通しての教え合いや辞書の活用
 - ・グループ内で教え合ったり辞書を活用したりして、生徒達が自ら考え、学ぼうとする意欲を育てる取組。
- ② 小学校での外国語活動を意識した授業の展開
 - ・子ども向けの歌、NHK教材などを用いて生徒達が楽しく自然に英語学習に入れるように心掛けた指導。
 - ・掲示板にEnglishコーナーを設けるなど、生徒たちが英語に触れる機会を増やす取組。
- ③ 教師の授業力向上
 - ・英語中核教員研修A、研修協力校で行われる授業公開や研修により、指導力向上を図った。
 - ・3度の授業公開、研究授業を実施し、授業改善を図った。
 - ・3度の研修会を実施し、指導力向上を図った。



8月 『考える力をすべての生徒に—パフォーマンス評価を活かして—』 講師 京都大学 特任教授 田中容子
10月 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」に係る実地調査 文部科学省 教科調査官 山田誠志
12月 『英語スピーキング指導に関する理論と実践について』 講師 鳴門教育大学 教授 山森直人

成果①

〔生徒〕

- ・ペア活動やグループ活動の増加により、英語を話すことへの積極的な態度が見られるようになった。
- ・習ったスラングやリアクションワードが自然に使えるようになり、相手を意識した応答が少しずつではあるができるようになってきた。
- ・授業外でも既習の英語表現を使って級友とやり取りする場面が見られるようになった。
- ・辞書を活用してきたことで、教師にすべて聞くのではなく、自力で解決するようになった。

成果②

〔教員〕

- ・英語中核教員研修Aの受講や外部講師を招いての研修を通して、学んだ指導方法を取り入れたことにより授業の改善を図れるようになった。
- ・授業中の基本的な指示や賞賛を英語で行うなど、教員の英語使用量が格段に増加した。
- ・研究会を重ねるごとに前回の反省を生かし、本時の目標を焦点化して実施できるようになった。

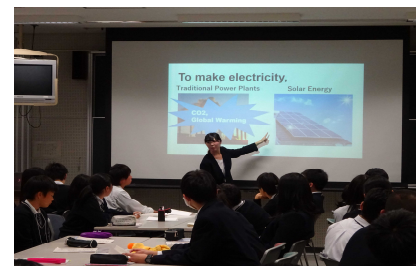
今後の課題・方向性

- ・英文を書いて思いを伝えることはできるようになってきたが、伝えたいことを既習表現を想起しながら即興でやり取りする力はまだ不十分である。
- ・言語活動を授業の中心にすえ、コミュニケーションの必要性を感じるような自然な場面や状況設定をすることで、生徒が英語を使う場面を増やす工夫をしていく。
- ・生徒が言語活動を通して、英語の表現方法に自ら気付き、学んでいく機会を増やす。
- ・小学校での英語学習との円滑な連携を図る。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～徳島県立鳴門高等学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・スピーキングの効果的な指導方法と評価の在り方について研究を深める。
- ・小・中・高の接続をこれまで以上に考慮した授業改善を実施する。
- ・学年間で統一した指導と評価を実施する。



具体的取組の内容

- ・CAN-DOリストに沿った年間指導計画・評価規準の作成
- ・校内研究授業及び研究協議会、公開研究授業及び研究協議会を6回実施
スピーキングを帯活動に組み込んだり、インタビューテストを授業計画に組み込むことで、学年全体での統一した指導と評価の実施
- ・補習の内容を級別の英語検定対策講座に変え、英語検定を本校で受験できる体制を構築

成果①

- [生徒]
- ・ショートスピーチやグループ発表などの言語活動に積極的に取り組む生徒が増えた。
 - ・英語検定受験者がこれまでの3倍に増えた。(36人→122人)
 - ・ICTを活用した研究授業が増えたことで、生徒のモチベーションが高まった。

成果②

- [教員]
- ・研究授業及び研究協議会に英語科教員10名の全員とALTが参加し、指導方法と評価の在り方について共通の認識をもって授業改善に努めた。
 - ・鳴門市小・中・高連携事業の一環として実施した公開授業は、20名以上の教員が参観した。
 - ・8月と10月の公開研究協議会には延べ60名以上の教員が参加した。

今後の課題・方向性

- ・スピーキングにおける即興性が乏しいので、フォーマットや原稿に頼らない発話が増えるように指導方法の工夫を行う必要がある。
- ・授業で意識的に英語を使用する割合が50%まで増加したが、生徒が英語を使って活動する場面を更に増やすように改善する。
- ・評価の客観性・公平性を確保するために、教員が話し合いをする時間をもてる時間的な余裕が必要である。
- ・ICTをもっと活用できる環境整備が望まれる。